

日本国憲法	2年 後期	講義2単位	担当教員名	井 坂 亨
	卒必 幼必 保必			
授業のテーマ及び到達目標 ① テーマ： 国民生活と日本国憲法との関係について理解する。 ② 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>近代憲法の原則や日本国憲法の制定までの歴史と基本理念を理解する。(1)</li> <li>立法・行政・司法のそれぞれの役割と働きについて理解する。(1)</li> <li>基本的人権の尊重，特に子どもの人権について理解する。(3)</li> <li>日本国憲法と保育との関わりや国民生活との関係などについて理解を深める。(1・3)</li> </ul>				
授業の概要 授業全般を通し、日常生活で、ともすれば疎遠になりがちな憲法について、身のまわりの事例をとりあげながら、憲法が日々の生活に深く関わっていることを再認識させ、憲法についての関心や態度を深めていきたい。憲法の基本的な用語と概念を理解させるとともに、日本国憲法の三大原則や三権分立等について、新聞等の記事や条文に照らし合わせながら理解させる。また、子どもの人権について考え、保育は憲法の実践であることについて、具体的実践例をもとに保育と日本国憲法の関わりを調べる。				

授業計画

コマ(回)	項 目	内 容
1	イントロダクション	憲法に関する基本的知識と生活の中に生きる憲法について
2	保育と憲法の関わり	保育実践は憲法実践だった(熱田福祉会けやきの木保育園園長)
3	近代憲法の原則	権力の分立 大日本国憲法との比較
4	日本国憲法の成立と考え方	日本国憲法制定の経過と日本国憲法の基本原理
5	日本国憲法の概観	前文と基本理念 平和主義 国民主権 基本的人権の尊重
6		第1章 象徴天皇制 天皇の国事行為等
7		第2章 戦争放棄(第9条の解釈) 平和主義について
8		第3章 国民の権利及び義務 基本的人権の保障 最高法規
9		第3章 国民の権利及び義務 基本的人権の体系 日本国民の義務の
10		子どもの人権(児童福祉法, 児童の権利に関する条約, 児童憲章)
11		子どもの人権(児童福祉法, 児童の権利に関する条約, 児童憲章)
12		第4章 国会(立法権) 国会の地位と性格, 仕事, 衆議院解散権等
13		第5章 内閣(行政権) 内閣の地位と性格, 仕事, 議員内閣制等
14		第6章 司法(司法権) 裁判所の種類, 役割, 三審制, 三権分立等
15	憲法と国民の生活	憲法の今後 講義の総括 保育と憲法とのかかわり
定期試験	15コマ終了後に実施する。	
テキスト	日本国憲法(小学館) 自作資料:日本国憲法資料集(保育に関わりのある法・規定等)	
参考図書	日本国憲法を口語訳してみたら 塚田薫 長峯信彦(幻冬舎) 保育と日本国憲法 橋本勇人(みらい)	
教員の 評価方法	授業態度(20%)、レポート・提出物状況(20%)、定期試験(60%)の総合で評価	
①準備学習等履 修上の留意点 ②課題に対する フィードバック の方法	①テキストの学習予定箇所を繰り返し読み憲法の条文の内容について考えてくる(1時間) ①憲法に関するニュースや新聞記事に興味を持ちまとめておく(1時間) ②毎時間、前時(前時まで)の口頭復習を行うため、学習プリント等での復習をしておく。(1時間) ②学習内容のまとめ等、グループ討論をしたり課題レポートを提出したりする。	

英語	1年 前期	演習2単位	担当教員名	志賀 理恵 (実務家教員)
	卒必 幼必 保必			
授業のテーマ及び到達目標 (学習成果) ① テーマ: コミュニケーションツールとしての英語の運用方法を学び、今後の活動への運用可能性を探る。 ② 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を実際に使ってみることで、コミュニケーションツールとして運用する意義を再確認する。</li> <li>・日本語と英語の音の違いを認識し、自己トレーニングの方法を学ぶ。</li> <li>・子どもと関わる際に遊びとして英語を取り入れる方法を学ぶ。</li> </ul>				
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・正解・不正解をベースとした評価型の英語学習からの脱却。知識としての英語を実際に使えるコミュニケーションツールへと変換する。</li> <li>・日本語と英語の違い、日本文化と英語圏の文化の違いについて理解し、リンガフランクの概念に触れる。</li> <li>・現在の英語教育のしくみを知り、乳幼児期に適した英語の日常生活への取り入れ方を知る。</li> </ul>				

授業計画

コマ(回)	項目	内容
1	オリエンテーション	目標設定・英語を習得する意義・本来のバイリンガルとはについて考える。
2	日本人と英語	日本の英語教育、日本語と英語の違い、日本文化と英語圏の文化について理解する
3	オーラルコミュニケーション	実際に英語を使ってコミュニケーションを取ってみよう。
4		・アイスブレイクアクティビティ
5		・自己紹介: Self Introduction ・英語で自分について考えてみる: All About Me ※課題は事前・事中に配布
6	英語音声学	オーラルコミュニケーションに焦点を当てる。
7		・アルファベットとフォニックスの違いを知る。
8		・フォニックスとは? ※課題は事前・事中に配布
9		・英語の母音・子音の音素について ・日本語と英語の発声の違い ・完コピチャレンジ: 短いネイティブスピーカーの動画を模倣
10	子どもと英語	子育て/保育の中に楽しみの時間として英語を取り入れる方法について、その効果と具体的方法について考察する。
11		・言語習得の仕組みを理解し、第2言語としての英語での適切な介入方法を学ぶ。
12		・英語絵本の楽しみ方を知る。※英語絵本をベースにしたアクティビティの考察。
13		・欧米圏のわらべ歌マザーグースに親しむ。※手遊び歌やリズム遊びの考案。 ・クラフト作成の中で使える英語表現について学ぶ。 ※課題は事前・事中に配布
14	英語プレゼンテーション	※課題は事前に提示し、14コマ目はその為の練習・準備時間とする。
15		
定期試験	定期試験に代用するレポートの提出: タイトル「私と英語」	
テキスト	英語の発音はこの15語だけで身につきます! 著者 頼野えりこ (Gakken)	
参考図書	Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? By Eric Carle/ 1日5分からの英語で子育て 羽織愛・山移玲	
教員の評価方法	授業態度 (40%)、レポート・提出物 (30%)、実技発表 (30%) の総合評価	
準備学習等履修上の留意点	① 予習・復習に限らず、反復学習の習慣化を図り、日常の中で英語に触れる時間を作る。(毎日15分~20分)	
	② 英和辞典または、chatGPT及びスマホのアプリ等を利用する。	
	③ 本講座での学びを自身の日常生活にどのように適用できるかという視点をもって取り組むこと。	
課題に対するフィードバックの方法	① 各単元及びプレゼンテーションの後に、指導者のみならず、受講生同士でフィードバックを行なう。	

保健体育（実技）	1年 前期	後期	実技1単位	担当教員名	高 橋 裕 彦
	卒必	幼必			
授業のテーマ及び到達目標 ① テーマ：運動することの意義を知り、日常化の大切さを理解すると共に生涯体育について考える。 ② 目標 ・運動に積極的に取り組むと共にグループ活動等での体育的活動を通して、運動への関心を高め、社会性を養う。（4, 7, 8） ・運動面から幼児教育に関する理解を深める。（1, 2）					
授業の概要 保育者自身が幼児と関われる程度の体力・運動能力を維持しておくことは重要である。また、運動に主体的に取り組む、運動の楽しさを味わい、運動が心身に与える働きを体験的に再認識することは、体を使った遊びを自在に発想して指導・支援することができる保育者になるための素地となる。球技や表現活動等を通して、他と関わりながら運動することの楽しさや心身への効果を体験していく。					

授業計画

コマ(回)	項 目	内 容
1	オリエンテーション	目標や評価方法、実施種目、評価方法、授業の進め方等 健康度・生活習慣診断検査
2	体力づくりの運動 リズムダンス	ダンス、体づくりの運動、集団行動 （新体力テスト）
3		
4	リズムダンス 発表会	グループごとの発表 相互評価 （新体力テスト）
5	体力・運動能力テスト	立ち幅跳び、反復横跳び、20mシャトルラン等
6	ニュースポーツ	キンボール
7	テニス／卓球／バレーボール	基本的な技能（ラケットの持ち方、ストローク、パス、サーブ等） パスやラリーによる基礎的な練習 ルールを工夫しての簡易ゲーム 審判の仕方
8		
9		
10		
11	テニス／卓球／バレーボール	基本的な技能（ラケットの持ち方、ストローク、パス、サーブ等） パスやラリーによる基礎的な練習 ルールを工夫しての簡易ゲーム 審判の仕方
12		
13		
14		
15	バドミントン	班編成 基本技能（ストローク、サーブ等） ルールを工夫しての簡易ゲーム 審判の仕方
16		
17		
18		
19	ボーリング	基本的なルールや技能
20	バスケットボール	班編成 基本技能（ドリブル、パス、シュート等） ルールを工夫しての簡易ゲーム 審判の仕方
21		
22		
定期試験	なし	
テキスト	なし	
参考図書	なし	
教員の 評価方法	実技発表（60%）、課題の実践等（20%）、授業への取り組み方（20%）を総合して評価	
①準備 履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法	①日々の健康管理に留意し、日常的な体力づくりに取り組む。（10分程度） ①スマートフォンアプリを活用し、日々の歩数を記録する。（定期的に提出） ①気温や湿度、運動にかかる安全等を考慮し、運動に適した服装（髪の毛の始末や爪の手入れを含む）で出席する。 ②各時間「振り返りカード」で自己評価し、担当からのフィードバックを次の活動に生かす。	

保健体育（講義）	1年	前期	後期	講義1単位	担当教員名	高橋裕彦
	卒必	幼必	保必			
授業のテーマ及び到達目標 ① テーマ：健康の維持増進には健康的な生活習慣の確立が重要であることを理解する。 ② 目標 ・健康課題を調べることを通して、自らの生活習慣を見直し、改善しようとする。（1・7）						
授業の概要 生活習慣病や心の病気が急増している現代にあつて、若者は依存症をはじめとした様々な健康課題を抱えている。そのような中で健康を維持増進するには、健康的な生活習慣の確立が不可欠である。そこで、若者の健康課題に焦点を当て、自ら興味を持ったテーマについて調べ、分析・考察させることで生活習慣を見直し、健康の維持・増進に前向きに取り組もうとする意識を高める。						
授業計画						
コマ(回)	項 目			内 容		
1	オリエンテーション 健康とは			講義の目標・評価について 健康の定義 健康度・生活習慣診断検査（DIHAL.2）結果の考察		
2	若者の健康課題①			若者の健康課題（生活習慣の乱れ、メンタルヘルス等）について調べ、発表資料を作成する。		
3	若者の健康課題②			自分で設定したテーマに基づいて調べ、分析・考察した結果を発表し、意見交換する。		
4	若者の健康課題③			自分で設定したテーマに基づいて調べ、分析・考察した結果を発表し、意見交換する。		
5	依存と依存症①			若者の依存と依存症（物質依存と行動依存）について調べ、発表資料を作成する。		
6	依存と依存症②			自分で設定したテーマに基づいて調べ、分析・考察した結果を発表し、意見交換する。		
7	依存と依存症③			自分で設定したテーマに基づいて調べ、分析・考察した結果を発表し、意見交換する。		
8	生活習慣の改善と健康の維持・増進			健康度・生活習慣診断検査（DIHAL.2）実施と結果の分析・考察		
定期試験	なし					
テキスト	なし					
参考図書	家庭の医学（小学館）					
教員の 評価方法	課題・レポート内容等（70%）・学習態度（30%）を総合して評価					
①準備 履修 上の留意点 ②課題に対す るフィード バックの方法	①「若者の健康課題（生活習慣の乱れ、メンタルヘルス等）」と「依存と依存症」について調べ、分析・考察したことを投影資料にまとめる。 ②4月と12月に「健康度・生活習慣診断検査（DIHAL.2）」を実施し、自らの健康度や生活習慣の状態を分析・考察することで、心身の健康、食事、休養、運動等について見直し、レポートにまとめる。					

国語学	1年 前期	講義1単位	担当教員名	大塚初美
	卒必 幼必 保必			
① テーマ 日本語の歴史と特色等、基本的・系統的な知識を身に付け、言葉に対する認識を深める。				
② 目標 日本語の構造を四つの部門（音韻・語彙・文法・文字）に分けて考える。(1、3、4、5) 日本語の基本的事項を再認識し、日本語の持つ歴史的な重みを理解する。(1)				
<b>授業の概要</b> 言葉を正しく豊かに使うことができれば、人はより文化的で心豊かな生活をおくることができるであろう。言葉は単なるコミュニケーションの手段であるばかりではなく、知的活動を促し、感情や情緒を深める機能を有する。普段、私たちは一つの言葉について深く意識することなく使っているが、豊かな言語生活を送るために言葉の働きを構造的にとらえることは大切な「学び」のひとつである。 本授業では私たちの母国語である日本語の歴史や構造的な特徴および意味・用法等について、講義を中心としながらワークショップ型の学習や演習等の活動を取り入れて言葉の「学び」を深めていく。				

授業計画

コマ(回)	項目	内容
1	国語学概説	ガイダンス・レディネステスト（講義のねらい・方法・評価）
2	日本語の体系	日本語の歴史、比較言語学の基礎
3	音 声 ・ 音 韻	音声言語としての日本語の基礎知識 ・ 音声の単位、音節 ・ アクセント、イントネーション、プロミネンス ・ 音韻論の基礎
4	文 字 ・ 表 記	文字言語としての日本語の基礎知識 ・ 漢字、仮名の歴史 ・ 表記
5	意 味 ・ 語 彙	日本語の特色 ・ 語彙（英語・中国語との比較）、同義語、異義語 ・ 敬語（待遇表現）
6	文 法 ・ 文 章	基礎文法事項 ・ 文法論及び構文論の基礎 ・ 文体論
7	共通語と方言	方言概論、地元の方言について知る ・ 方言調べ（フィールドワーク）
8	言語生活と日本語	若者言葉と日本語の将来
定期試験	8コマ終了後に筆記試験を実施する	
テキスト	教師自作のテキスト・ワークシートを用いる。	
参考図書	宇野義方編『国語学』学術図書出版社・福島邦道『国語学要論』笠間書院	
教員の 評価方法	学習への意欲・関心・態度(20%)、課題の提出状況と内容(20%)、定期試験(60%)等により総合的に評価する。	
①準備学習等 履修上の留意点 ②課題に対する フィードバック の方法等	① 授業開始時の「5分間ドリル」の実施 ・ 前回履修内容の確認 ・ 語彙力を高めるためのドリル 授業終了時の「振り返りシート」の記入 ・ 自己評価 ② 上記について回収し、添削及び評価を行い、個人にフィードバックする。	

国語表現	1年 後期			講義2単位	担当教員名	櫻井正昭
	卒選	幼選	保選			
授業のテーマ及び到達目標 ① テーマ： 国語表現に関する基礎的な知識を身に付け、大学生・社会人として必要な日本語活用能力・表現能力の向上を図る。 ② 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>英語等の外国語と比較しながら日本語の特徴について理解する。(1、3、4、5)</li> <li>漢字の成り立ちと機能を理解し、その活用能力を高めて文章表現力を伸ばす。(3、4、5)</li> <li>時や場に応じて的確に「話す力」や、課題に即して簡潔に「書く力」を高め、実用的な活用スキルを高める。(3、4、5)</li> </ul>						
授業の概要 SNSの普及は、様々な情報を手軽に発信しかつグローバルに共有することを可能にしたが、一方で若者の読書離れ（活字離れ）を助長し、自己を言語表現する力の低下を招いていることは否めない。若い世代の人たちが、自分の思いや考えを正しかつ豊かに表現する力を身に付けることは、コミュニケーション能力を高め、心豊かに生きる力を育むことにもなる。 本授業においては、日本語の特徴や機能を踏まえたうえで、言葉を適切に活用する能力を身に付けることを主眼とし、実用文書（挨拶文、礼状、履歴書等）の作成やTPOに応じた「話し方」のスキルアップなど、演習を中心として進めていく。						
授業計画						
コマ(回)	項目	内 容				
1	日本語とはどんな言語なのか①	世界の諸言語から見た日本語				
2	日本語とはどんな言語なのか②	「漢字」が果たす大きな役割 表意性 視覚性 音訓二重性				
3	漢字語彙を増やす①	同訓異義語 同音異義語 熟字訓 熟語の構造				
4	手紙文の書き方①	手紙文の様式 [前文・主文・末文] 伝統的な書式				
5	社会生活と自己表現①	魅力的な話し方 自己分析メモによるスピーチ				
6	漢字語彙を増やす②	同音異字語 同訓異字語 同時異音語				
7	手紙文の書き方②	園説明会・園見学・実習終了時等の御礼文				
8	社会生活と自己表現②	1分間自己PR 面接に際して 面接の実際				
9	実務文書の書き方	基本的な書式 依頼文 案内文 書類送付文書				
10	原稿用紙の使い方	題・氏名・書き始め・段落・句読点等の約束事				
11	小論文(就職作文)の書き方①	小論文の特質 小論文課題の目的 出題者の意図 採点者の視点 出題形式				
12	小論文(就職作文)の書き方②	テーマをもとに小論文を書く				
13	敬語表現	敬語の種類と働き(尊敬・謙譲Ⅰ・謙譲Ⅱ・丁寧・美化)				
14	話し言葉と書き言葉	話しことばの見直し 書きことばの文体 語句や語彙の選択				
15	1分間スピーチ	学びのまとめとして、スピーチを行い、話のスキルを高める				
定期試験	特に実施しない(単元小テストの実施に替える)					
テキスト	教師自作資料					
参考図書	特になし					
教員の評価方法	平常点(20%)、発表・レポート・提出物状況(20%)、中間テスト(60%)の総合で評価					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業後の課題学習(1時間) ②授業の場での発表・確認 ③ファイル点検					

社会学	1年 前期	講義2単位	担当教員名	井坂 亨
	卒選必 幼選必 保選必			

授業のテーマ及び到達目標

① テーマ：社会学の視点や水平思考(ラテラルシンキング)を活用し、思考力、コミュニケーション力、表現力を身に付ける。

② 目標 ・社会学の基礎と社会心理学の基礎について理解する。(1)

- ・現代社会の様々な事象や問題等について、その背景や内容を多面的・多角的に考察する。(1)
- ・スピーチやグループワークを主とした活動を行い、社会人基礎力を育てる。(1・8)
- ・グループディスカッション活動を通して、話す楽しさや話し合う楽しさを味わう。(2・4・8)
- ・ゼミ形式で、自由な発想や思考に基づき話し合うことで、コミュニケーション力を高める。(4・8)

授業の概要

「人見知りの人」「恥かしがりやの人」「人前で話すのが苦手な人」に特に勧めたいのが「社会学」です。話すことの楽しさや考えることの楽しさをみんなで味わい、柔軟な思考力とコミュニケーション力を養うゼミです。「当たり前」や「常識」を疑ってみることに始まる少々ひねくれた見方をする学問ともいえます。現代社会で起きている事象や問題、課題等をグループディスカッションを柱とした活動を通して、様々な角度から多面的に考え自由に話し合ったり、直感的な考えを大事にして話し合ったりしながら多様で柔軟な視点や思考の形成を目指します。人前に立つことにも慣れて、保育者に求められているコミュニケーション力や表現力を高めることができます。

授業計画

コマ(回)	項目	内容
1	イントロダクション。	社会学で学ぶこと。授業の進め方。ラテラルシンキングって何?
2	脱常識。	常識を覆す。頭が固いのか柔らかいのか、確かめる。
3	コンビニ深夜営業規制、是か非か。	夜中のコンビニは必要? 図式化して整理する。(結論は出さない)
4	携帯電話のアンテナ設置に税金投入?	多角的に考える。限界集落には? 賛否を考える。(グループで結論を出す)
5	「若者言葉」を考える。	言葉と社会を考える。通じるか通じないか。(結論は出さない)
6	本当の自分とは?	性格診断による自分と見られている自分について考える。性格診断と一致するかしないか。(結論は出さない。)
7	悪夢。	意図せざる結果。こんなはずではなかった(グループで結論を出す)
8	貧困って何だ?	概念をとらえ直す。いろいろな貧困がありそう。(最後に個人で結論を出す)
9	結婚と恋愛について	あなたと相手の心の距離について考える。(個人の考えを中心に)
10	累進課税を考える。	税金のありかたを考える。解決策を考える。(グループで結論を出す)
11	環境問題を考える。	人間の主体的行為。解決策を考える。(グループで結論を出す)
12	少子化についてどう思う。	なぜ少子化なのか。高齢者社会との関係は。(グループで結論を出す)
13	何もない宿泊施設	あなたならどう経営しますか。(ラテラルシンキングに挑戦)
14	今求められている人材とは	あなたが会社の人事担当だったなら。あなたの社会人基礎力は。
15	大学の未来プランを作ろう。	アイデア発想とコミュニティ・プラン。魅力的な宮城誠真短期大学を作ろう。(グループで結論を出す)
定期試験	小論文形式の筆記試験を行う。	
テキスト	なし(日本や世界情勢に関する新聞記事、その他各種資料等を活用)	
参考図書	新体感する社会学 金菱清著(新曜社) 図解社会学のことが面白いほどわかる本 浅野智彦著(中経出版)	
教員の評価方法	授業態度(10%) ディスカッション(50%) 定期試験(40%)	
①準備学習等履修上の留意点②課題に対するフィードバックの方法等	①授業の始めはアイスブレイクを行うため、日常の様々な出来事に興味関心をもち記録する。(1時間) ①新聞記事やニュース等から教育・保育に関する問題の社会事象に興味関心をもち記録する。(1時間) ②授業の課題「テーマ」に関するディスカッション等の自己評価を振り返りシートに記入する。	

生物学	1年 前期	講義2単位	担当教員名	高橋和吉(実務家教員)
	卒選必 幼選必 保選必			
授業のテーマ及び到達目標 (学習成果) ① テーマ : 自然(動植物)と接することの大切さを知り、子ども達に豊かな体験遊びをさせる力を身につける ② 目標 ・生物学の意義及び豊かな自然の大切さについて理解する (3) ・環境による動植物の種類や生育状況等の違いを理解する (3・4) ・自然に親しみ、草木遊び等の体験遊びを身につける (3・4・5)				
授業の概要 人間・他の生物と環境との様々な係わり合いを、身近に見られる動植物の採集・観察等を通して理解が深まるようにしたい。生物学の受講者である本学の保育科の学生は、幼稚園の教諭または保育所の保育士を志して入学してきている。したがって、生物とその生態などを広く探究すると共に、幼稚園・保育所等の教育現場の自然環境や動植物、生命等にも触れることで子ども達の指導に生かすことができるよう、指導展開を図りたい。				
授業計画				
コマ(回)	項目	内 容		
1	生物学について	・生物学とは・生物学の重要性と今日的課題・講義の展望		
2	生態系について	・生態系の中での物質循環・生物の多様性と物質循環		
3	生物観察の方法	・動植物の観察の仕方・ハコベなどの観察をしながら観察の視点をとらえる		
4	大学校地の生き物①	・校地に見られる植物の植生調査と観察		
5	荒雄公園の生き物①	・公園に見られる植物の植生調査と観察(継続観察)		
6	水路の生き物①	・水路に見られる生き物調査と観察(継続観察)		
7	草木遊び①	・草木遊びの意義と遊びの種類・シロツメクサなどで遊ぶものをつくる		
8	押し葉標本作り①	・押し葉標本の意義と押し葉標本の作り方・押し葉標本をつくる		
9	大学校地の生き物②	・校地に見られる生き物調査と観察		
10	荒雄公園の生き物②	・公園に見られる植物の植生調査と観察(継続観察)		
11	水路の生き物②	・水路に見られる生き物調査と観察(継続観察)		
12	草木遊び②	・クズ、ギンギシなどの葉を利用しての音出し遊びをする		
13	押し葉標本作り②	・押し葉標本でしおりを作る(ラミネートを使用)		
14	移り変わる自然	・自然界での生態遷移・人為的場所での遷移・温暖化		
15	学習のまとめ	・これまでに学習してきた内容の確認とまとめ		
定期試験	15コマ終了後に筆記試験を実施する。			
テキスト	自作資料等を使用するためテキストは使用しない。			
参考図書	使用しない。			
教員の評価方法	観察記録や作品等の提出物(10%)・学習への取り組み態度(20%)・テスト(70%)を総合的に判断			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備物は忘れずに持ってくること 学習の準備・事前学習 (1時間) ②課題提出後は、必ず返却し解説を行う。			

情報処理	1年 前期 後期	演習2単位	担当教員名	相澤 裕子 (実務家教員)
	卒必 幼必 保必			
授業のテーマ及び到達目標 (学習成果)				
① テーマ: 職場や社会など実践で活用できる情報技能を習得する。				
② 目標				
・コンピュータリテラシーの獲得 (3・4)				
・的確なソフトを利用した情報リテラシーの習熟 (3・4・5)				
・アクティブラーニング (3・4・6・8)				
授業の概要				
幼稚園・保育園での利用を中心に、さまざまな職場で活用できるコンピュータの諸活用について学ぶ。指定された様式の帳票を作成するだけでなく、自らの発想で作成すること、それに必要なソフトを適確に選択して利用できる力を養う。				
また、インターネット利用して情報を収集・選別・活用する技術を習得するとともに、パソコン利用上の簡単なトラブルに対する対処法も系統的に学習する。				

#### 授業計画

コマ(回)	項目	内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション・パソコン習熟度確認・Windowsの基礎知識
2	情報基礎	入力訓練・インターネットの利用・セキュリティなど
3	文書作成	Word (基礎) 文章の要素と構成・社外文書と社内文書・基本操作
4	文書作成	Word (表作成基本)
5	文書作成	Word (図関連基本)
6	文書作成	Word (図関連応用)
7	文書作成演習 ※1	Word (確認問題)
8	文書作成	Word (レポートの基本)
9	文書作成	Word (レポートとアウトライン)
10	文書作成演習 ※2	Word (確認問題)
11	文書作成演習 ※3	Word (実践問題)
12	表計算	Excel (表作成基礎・書式)
13	表計算	Excel (表作成基礎・計算式と関数)
14	表計算	Excel (グラフ)
15	原稿用紙作成 ※4	実習や就職活動で必要となる原稿用紙への入力演習 (簡単なテーマでの小論文作成)
16	表計算演習 ※5	Excel (確認問題)
17	表計算	Excel (ピボットテーブル)
18	表計算	Excel (発展的な関数利用)
19	表計算演習 ※6	Excel (確認問題)
20	表計算演習 ※7	Excel (実践問題)
21	ファイル連携	差し込み印刷・Excel表・グラフの貼り付け
22	ファイル連携 ※8	実践問題
23	プレゼンテーション	PowerPoint (プレゼンテーション基礎)
24	プレゼンテーション	PowerPoint (スライド作成とスライドマスター)
25	プレゼンテーション	PowerPoint (画面切り替えやアニメーション)
26	プレゼン演習 ※9	PowerPoint (実践)
27	プレゼン演習 ※10	PowerPoint (実践)
28	実践課題 ※11	Word利用の文書作成 (幼稚園だよりの作成)
29	実践課題 ※11	Word利用の文書作成 (幼稚園だよりの作成)
30	総合課題 ※12	学級通信をプレゼンテーションにする
定期試験	定期試験に代用する課題提出 (※マーク) を設定している。	
テキスト	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラルOffice2016対応【NESS付】 (noa出版) / 情報倫理ハンドブック	
参考図書	実践ドリルで学ぶ Office活用術 Office2016対応 (noa出版) / 情報活用力 (noa出版)	
教員の 評価方法	定期試験は実施しないが、単元ごとに確認テストが実施される。	
	※1~12の課題は提出を必須とし、当日欠席の場合は別途提出するか減点となる。	
準備学習等 履修上の留意点	webテストの結果と課題の出来栄え、指示に従った作成 (氏名記載・操作方法等) であるかによって採点する。	
	演習科目のため、シラバスは学生の習得具合等によって前後したり変更することがある。	
	既に検定資格等を有するため課題が軽微と判断した場合には、異なる課題を提示することがある。	
課題に対する フィードバック の方法	課題提出は指定された期限までとし遅延提出は認めない。欠席時は要相談。	
	webテストを活用するため、自身の状況は実施の都度結果表示にて確認できる。	
	演習科目であるから、各回において全員が指示された形式でアウトプットできるところまで支援する。	
	課題をクリアできない学生には学習ドリルを準備し、事前・事後の学習を期待する。	